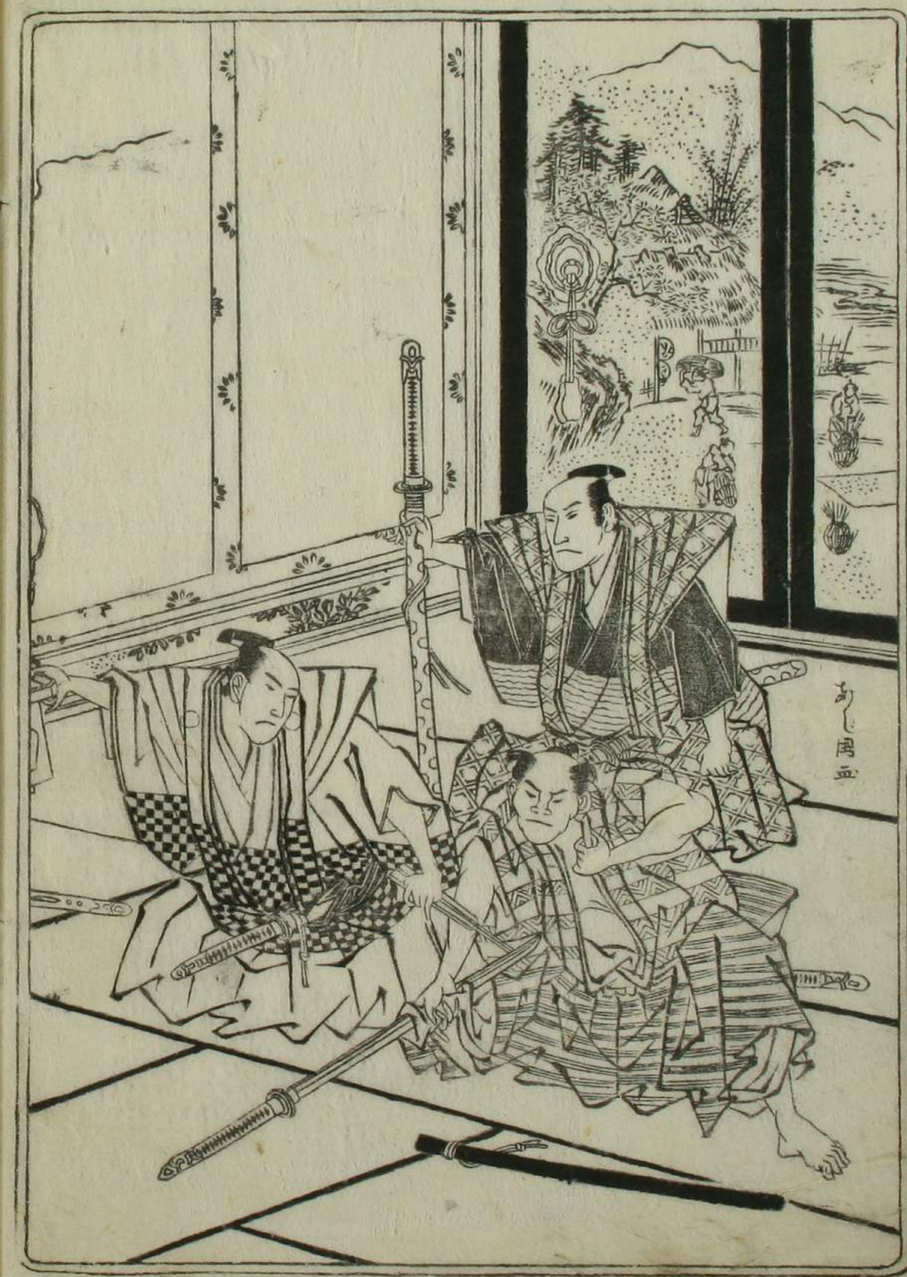
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

書のあるを奪ひて山岡へ呈ぐまゐ。玄番允披き開て原来。こハ修験めが屈死せる疑獄の訴状なり怪奇巧なるハ吾高運の做ところなり匹夫も活置てハ後日の妨いで一刀に截断くまんと大の眼を念じ。鷲破佩刀を脱んとす阿呀要時侍王へ那下脚め。大官人直に御手を却えんハ勿躰なし。小的が取置に任せ給へと声をかけて襖を披出来るハ別人ならず日外窠巣破て逐電したる豹藤内の蛮ようとの郎に舎匿居たるるるぶの時豹藤内ハあるゝ鞭を把もあへず。徳兵衛が背よりゝ臀をうけて策。徳兵衛ハ其儘阿と呼びて俯に仆るを。連こ畳くて隆くとひさ折に折ハ鮮血滸くと九穀より迸て出。憐むべし一點無罪の良民がく

へ13
3149
10

山岡が非道の為に一朝草葉の露とぞ消ゆる豹藤内うち密語、この屍の捨やゝ如くせバよからうと議に玄番允うち頷頭藤内做得汝よきに計へと道に浩處駿の了頭ども慌忙出来。相公早く内房へ入せ給へ。今日ふん和子君に物怪の附て侍るゝと喘吁ゝ玄番允大に駭き直に帳内を望に一烟走に跑入ぬ。さてはまづさておきて。駒澤次郎左衛門春雄不科災難にて御不審を蒙ゝ當分冷泉帯刀に預けられしゝバいゝゝ慎を只閉籠てぞありける。伊人生得天の縦る英才あれハ策を惟幄の中に運らし。勝ことを千里外に決すいふごとく。今かく閑居に在ふゝ只顧治國の為にほどゝ肺腑を腦ま。夜毎に仰で乾象と窺るゝ今宵も獵ゝ田来る東主帯刀と共に露臺に上りて。やゝ天文と觀了まて。阿呀星已に光尅と失ゝ。國敵ゝや運數盡たり御家安泰の表徴とゝやとゝふ帯刀いへらく。ゝあらへ何等の事ありてゝ國敵速に亡ぶんと。も果ざるに駒澤外面と下見しゝハ怖しゝ一道の怨氣北より出て南に墻外に屈死の者やあらんずらん。帯刀殿いそ死査あれと道に。帯刀ハんと得て即下ゝとち若黨等に後門を開りせ竊に四看どもいと冥暗き深巷。時已に樵樓の三鼓を報て交加弗に人斷ゝ。時ぞうありて紗沙と声轉して四五個の走卒等恠の紋つける提燈を先だて。一擔の吊臺と擕来帯刀を後門と行過るゝ。帯刀やゝゝ喚止若黨ども。ゝ今しゝ油蕈に拉除させ燭と照してよく視まぶまぶ嫩やゝある蕪菁葉蔽がうに

種々の菜蔬を唯〻盛てぞめく〻る。帶刀ハ蹲居走卒どしを屹と睨み奴輩ハ誰が内の者ぞ。ぞどてか、夜陰よおゝび何ぞへ這の菜蔬を拿ゝぞと謝問まて、走卒等戰さ〻吾們ハ山岡が下從まいが今日不料公子よ鬼注が附て侍るゆへ家公〻り上の庄の天寧寺へ大般若の祈禱と托を申さん。大衆へ明早の饗膳の聽用ぞふと夜深ぬから菜蔬を餽申さるまてんと陳じけるよ。帶刀更よ信然とせず、直よ手の者を令〻して那の走卒等を圍住吊墓をバ裏頭へ擲入させ。即時菜蔬を除去させて檢査見よ果して一個の死屍ぞ露出る。走卒等ハ瞠目頓口て面色乍土の如し。帶刀ハ眼を怒らし汝等ハ殺人の同類かまどゝも相を赧て助け回すほどよ辱く想ひその屍をさ〻閣回を汝が主ハさらまり誰よもあれ。倘この事を塵ごゝろも失口よかゆてい早速拘到縛馘を斫きむべ〻ど嚇さまて。走卒等ハ大家ゆ低〻〻と寒戰出〻咬牙各地よ俯伏て合爪ぶゝく恕命の恩を謝し。強て脱たる腰を伸兢〻く墓谷荷去ぬ駒澤次郎左衛門出来屍を撿さめ。ハ鞭瘡とおば〻〻肥肉よ紫青色の痕卯たまども總て致命處をとゞふ〻ぞと治をべきハ檀中ふ微〻一縷の生氣殘まゝと。やゝ熱き手巾の類よて通身を蒸〻温めさせ。木乃伊を許多飲〻むまバ。時とゝりあゝて死者ハ吻と息噴迴し。兒角ぎてや言ゆどよぞゝるゞふい申夜よ豹藤内よ壐殺されたる木綿屋徳兵衛ぞゝ次郎左衛門その口款を聞糺。熟〻〻帶刀と謀て。火速荻野祐仙ぞ



駒沢智國と安しず

拘到来らせ直ゑ拷門ゑ掛しゝば。祐仙ハ責苦ゑ忍ぶねて
山岡玄番ゞ岩代瀑布太を荷擔。叛逆を企てしゝ。豹藤
内とて。頗膽略もあゝ波臣と扶持。萬の叅謀と。種きの陰匿
を計較ゝる一五一十を。おちもれく吐露せゝ。さてまゝ今旦も
山岡ゞ一子千鶴丸ゑ邪魅の附なる所以を何如ふと尋るに
家公の留主の徒然を慰んと梅香ゝ鬟輩ハ。僅く八歳の千
鶴丸を傳て。看樓の擂子より通衢の往来を下視し。何く
もと嘯ゝていと喧し。日もちゝ〳〵の入ゝと。一個の弄蛇乞児
ゞ經過ゝり。例のやうゑ擂子の下ゑ在て。百般と蛇を弄使て饒
舌ゝるゑ。侍女どもいと興ゞ至て餘念ゝく。いつゝ簾子をさへ
過半捲ゝけなるゑ。和子い乳媼ゞ膝ゑ尻ゝけて在すを。弄

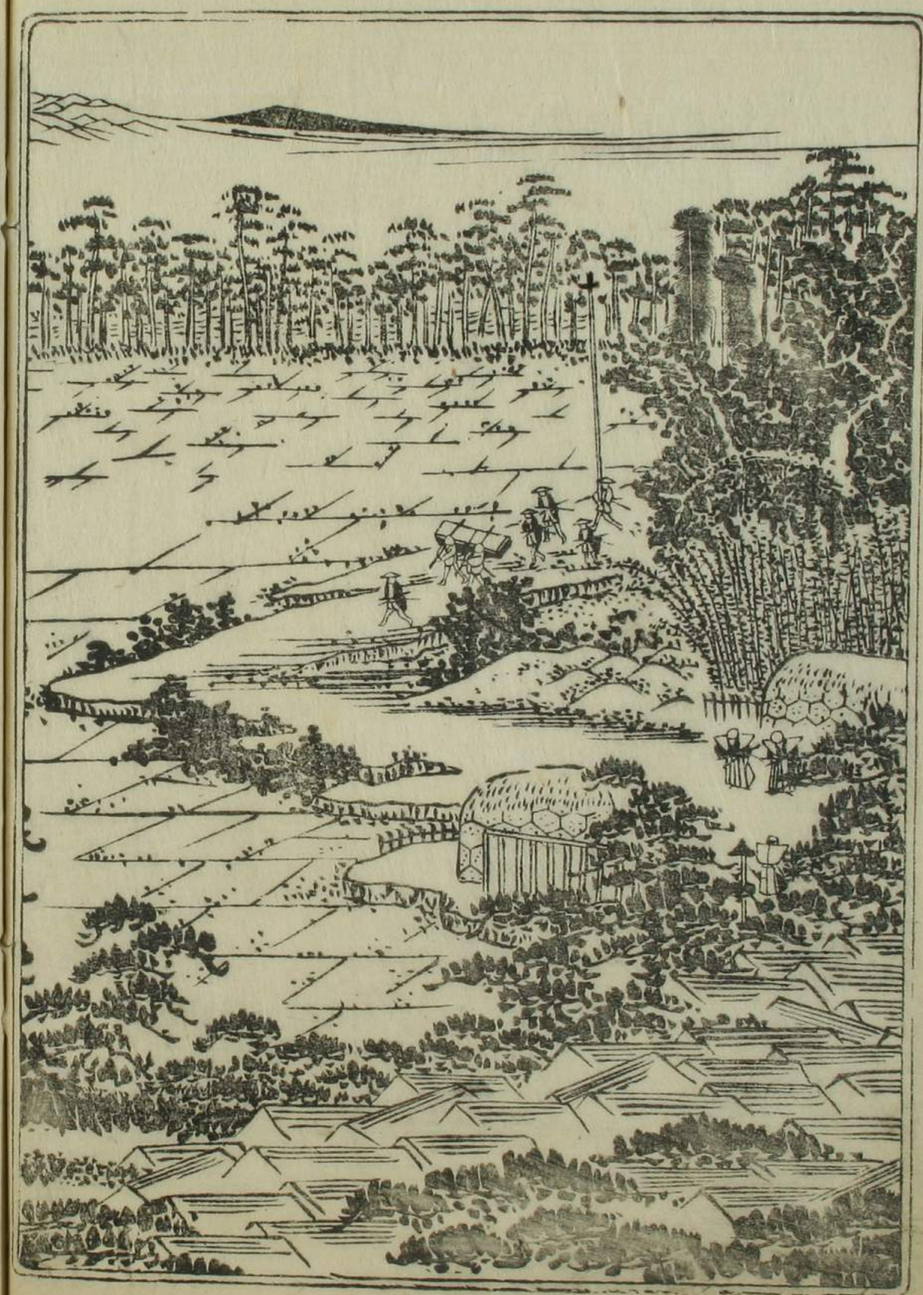
蛇乞児ハこゝを以ゝるゝゝ。何やらん念を有声て。已ゞ領ゝ蛇を
ほどけバ。這の蛇晃〳〵と看樓の裏ゑ飛入る。侍女共ハ罕
と吽びて忙惑へるその間ゑ。那曲者ハ何處へゝ往けんゝいられゝえず
ぞゝゝる。千鶴丸ハこゝを魔きて發急驚風ゝれ。大熱灼ゞ如くゝれば
拘傳乳媼ハ安ゝらずおもひ。忙ハしく内房へ抱き行て。種くゝ勞ゝち
とれば侍女どもハ醫師ゑ禱師ゑとたゞ騷ぎゑ騷ぎ。總て人心地もなし
惡ゑも強く愛ゑも強き山岡殿。歸端こゝを守。辜駄
天の如く内房ゑ跑入て。母ゝき愛子ハ一入可愛さもい
やまゝう。千鶴丸ゞ病床ゑ襯き。肚腹ゑど撫摩つ見て
あるゑ。ゝいうゑいと腥き蛇の鑣首立て山岡ゝ睨ゝゝるゞ。
紅の舌ゝ〳〵と出し。幾尋ともゝく雉の腹を巻乞

たるハいと可悪まゝ凛まゝげるゝさゝもの山岡も呆果て。只是夥の験者と聚めて。多方穰法を做さゝむまどゝも何の効もあらで。稚ハ倍煩悶しめる光景かまび。玄番允ハ茫然とゝして困ゝをつてぞ在ゝる。かくて省顧よ来る同紋衆の勸よ任せて。名たゝる佐伯一清軒を招うゝむ。玄蕃ハ東道支度ゝして待よ。一清軒詰且祭ゝて。その托を允ひ。軈て卦を起をよ又山風蠱を得ゝる。一清や〳〵霎時思唯さてゝやゝる。ハ山風蠱といへる卦よて三毒盤の上よて相食の兆形ゝり。三毒とハ蝎牛蟾蜍蛇の三毒ゝる。ゝるに今寥爻ふゝりて味ハひ侍るよ。大毒已よ中毒小毒と併食ゝて只一毒とゝる。妖氣最深重。唐土よてハゝれと金蜚蠱毒

とゝふ。世の取謂犬神とを形ゝ。さゝまバこの邪祟中〳〵尋常の加持祈禱の穰べゝうもあらず。拙老も平常の蠱毒ハ頃日も泰山府君の法と修ゝて穰除たまど。公子の患たゝへ鬼注ハ一方ふらぬ大毒れまバ。拙ゞ浅術の及所よ侍らどとゝふ。山岡ハまと慨慟よ穰除の法を需て止ざゝるまバ。一清や〳〵沉思せゝゞ。有有有。卦象よ蛇亀小因むの意ゝゝざあれバ玄武神聖の霊威よて。容易この邪祟と除くべゝ。その法ハ従来顯聖ある霊符の尊像を設けて。皿よ一頭の亀を貯へ。姉見大菩薩の大鱗を修ひ給ゝぐ。蠱毒立所よ退散すべゝ。必ゝも疑ゝるべゝらず。倘又三十四時を過されバいゝゝゝその詮ゝるべゝ。最鉄口もいひ放ぬ。山岡ゝ

逆意の事も歴然と卦面ゑ見えれども、深く忌諱を避
聊も其色とも顕さぬ様にとや、玄番允秀門ハ一清
軒が明断ゑ服し、聞しゑ優る國手うふと厚く賞して
回りける、時しも生憎と御館より急の御召あるよぞ
玄番允ハほどなく宮迫たまども、厳命辞がたく、只得登城
せんと出かゝる。豹藤内を機密房ゑ呼よせてゝやう、戯
息が穣法ハ時刻の期あるまじ、汝ゑ一夫事託れたく、そハ
如くせよと私語おかる。陪徒を将て出でさけり、ゑまハこれ
山岡が豹藤内と己が腹心と援思へる故なり、玄番允
秀門ハ早御館ふ候て例の席ゑ着ゑてや長臣等ハ起光
来て詰居たり。時ぞうあるて駒沢次郎左衛門何の間ゑ

縦禁ありしが、麻社祢の襞積整く、温くうち上て、正面に坐
を占さていとやう、小臣不肖ふまども、今日事の裁判ゑ
をべき釣旨を蒙ゑたまバ、高坐御免と式代せ、冷泉
帯刀やとら令を傳、訴人木綿屋徳兵衛犯人荻野祐仙
と書院の白洲へ拽出さ
得て面土色の如く、岩代瀑布太と眼を相着せ、各懐鬼胎
逡巡せり。駒澤次郎左衛門威儀を正し、各慎て奉承昨夜
まつ斯くの事あり、木綿屋徳兵衛義生して審ゑ申出し而
早速祐仙を拘到痛拷問ゑかけし所、叛逆の張本山岡玄番允
岩代瀑布太と合駆君を幽籠奉り、己が子千鶴丸を儲君
とし、大内家の社稷を奪ん と謀ゑ、又小臣をも黙んと祐



仙よ命金子もて徳兵衛が兄修験伽縷羅院が命と買得。小臣へ寃の難題を声言且渠よ自害せしめて小臣が雪寃の滅口とさせたることども逐一白状して。玄番允瀑布太が罪科已よかく顯然たるハ。天網恢々疎すして漏さざるハ此事ならんと叙よける。玄番允ことを聞て呵々と笑ひ修験がことハ姑息。我を叛逆かぐハ何等の讒語ぞといへも果ぬよ。瀑布太も怵ず居丈高よ称りて。小生とも謀反の荷擔人とハ旁痛し。そハ什麼ぞ歴然る證拠の侍るや。和殿こそ真の叛逆人ふと。霊符の一軸と豹藤内よ盗取せる事ハ。渠が白状明白るよ。上意呼るる心得ぞと念を發して朝ゝれども。次郎左衛門ハ見向もやらず何呼祥一ハ何處よ在。早く来ると高やるよ呼びけまバ。披房よる波と應て豹藤内とハ方便の假名實ハ駒澤了庵が賤息祥一。山岡殿へ見参せんと呼るけく。左流よ打份。右の手よ三方な拿左手ハ千鶴丸の手を携乃て悠ゝと坐よ即バ。山岡見よる。原来豹藤内目ハ駒沢が間諜よて在つるゝ。謀得つと想しよ謀らるることこそ朽惜れと。天を仰で長嘆し。あの三方ハ我よ賜剣自盡との結構ぬるゝと。熟視バ。短刀よハあらぬ。亀を纏へる蛇と載てあるぬ祥一。ゝねて。自家弱冠よて父了庵が勘當とるけ。本藩を亡命。甲賀山よ隠を居て忍術と修行せし小其頃痘と病て面容變人よ認めらるぬと幸と。義兄次郎左衛門密

を呼下し。父に代りて勘氣を許さを嚮に霊像の失る當時
貴殿の手より修験を捕らを次郎左衛門謀叛せりと寃を云
かけらるおそうら。計に就て計を行るへハ。孫呉ゞ秘奥をうこそ
兄次郎左衛門より奇計の指揮を受間牒とうて貴殿方へ入込
駒沢を罪せんにハ修験一個にてハ放心不下と貴殿に一計を進う
寶藏に躱入曲意捕ハまてきうせ。ゝ。從来那の一軸ハ貴
殿竊に匿置をしとい四相を悟る次郎左衛門疾くこれと察
昨日毒蛇乞児をして千鶴丸へ金蝿蠱毒を施させたるに。
貴殿まゝ一清軒ゞ易斷を信じ自家に一大事を発し。霊
符の尊像を迎さをしるゆへ小的即黠襄を做して。頓に推の
鬼注を禳驅正實と落掌一軸ハ。次郎左衛門ゞ指揮ふ

千鶴丸の田忠の手土産こゝ。適間鉤座へ呈上たうと
いひ演ゞるふぞ。玄番允今ハ一語の抵瀬こゝろく。忽地ふ罪
ふ伏し。且駒澤ゞ寛厚なる所置を善し。猛き心も自
然と融け。次郎左衛門ふうち對ひかく發覺うへハ是非ふ
及ばずいで殺身せんと肩衣刎をバ。瀑布太も共肌甘げ。
已に自害と見えうゞを次郎左衛門忙これと止め貴處ハ
舊こを公族大夫。君寛仁に在せバ。血で血を洗事ハ做さ
せらまじ。孰公裁を待めさまに。私に切腹して御殿を汚
さをんハいゝ。罪を累ぬる道理。まゝ瀑布太主も死を
止まり。過を改らまをさをうう無二の忠勤あまを。足下程の
才幹と公忠に施をるバ。實是國事に任るん。功を以て

罪を償ふ例もあり。曲て小臣が諫を從まをよと多方演說は。君候ハ適間よう。御上段の隅簾よりの光景と透窺あらせらるゝやとう時次郎左衛門をちらく召ま「次郎左衛門山岡が家禄ハ千鶴丸へ申しをくるぞ。鴻臚ハ隱居させよ。その餘ハ汝が可由自裁は所置といひをて入せ給へバ。次郎左衛門波波と俯伏てうち慟を領ぬ

二十回　壽

さまバ駒澤次郎左衛門ハ。殿の鈞肯まうせ。岩代瀑布太が死罪を赦し。己が屬吏と做して。海田開發の惣司ならしむ瀑布太ハ殿の御惠ハ厚く想ひ。又駒沢が恩ともて仇を酬たる好意と好し。作邪心と翻し。悪を強けまバ善ふも強とゝ。いち早く忠功を建て。舊悪と償さんと。種く工夫と凝し。勞勞と厭ハず努力をして。夫と使こと度とくづさず寛やゝ物して速ゝ成駒沢が指畫のごく。多年ならばて遂を幾千町の腴田とぞ闢きゝる。但這の新田の隄防ハ。影の閘と設たまバ。旱天ハ閘を閉。雨濕ハ閘と開て。落潮張と落しゝる故。聊も水旱の損ハ。萬く歳の實地と成ゝるとかや。駒澤ハ舊新田と闢ことハ古田荒るとて好ざまども這の仟田の新法ハ。又十金の國益と査勘出して闢せたるよし。おゝ。おくて駒澤が執成よて木綿屋德兵衛ハ孝行奇特者ゝと褒させらゝ。御城下ふ於て販布買賣の惣問丸を仰せ

つけられバ年を經て財累巨萬今こそ老母を安楽ふこ養
ける徳兵衛又貲財と費して一宇の梵刹を営しい兄伽縷
羅院ゞ菩提と吊らふためふせ〜こぞ、さてこまと荻野祐仙し駒
澤ゞ胸襟ゑて死刑一等を宥らを深山へをしこめ是。生涯
山を出ることと許さまず。駒澤まと橘雞菴ゞ一功を賞し
名と雞作と更のさせ一株の夫頭とゆ〜勇て新田の出夫世
話ゑも與ら志めゆ。かゝ〜ゝし後ハ國泰ゑ民安く。雨調風順年
年五穀豊登て途遺とるを拾ハず巷夜扃ず明君の徳化
の然ら志むること。ハいひゞら分國ハさらゑて異國までもこれ
ふ化せらを。風俗移易て民ゝふ淳朴ゑうまさりて當初の
人肉經紀ふどへ跡ゑくゆゆ。大内介殿ハ祥一ゞ今般の

勲功と賞せらを。新知五百石を賜ハゝ騎士列ゝそ做され
けるゞ又次郎左衛門とバ當路職ゑ登庸たまひらうごを帯刀
ゞ吹噓ゑて已ゑ代しゆゆ。帯刀もまゝ忠實の武人ゆう
し。加旃ず帯刀ゞ好意ゑて兼て聞知まる秋月氏とゆ良縁
と王成せんと、筑前路岡へ話談ゑゑ弓之助も當時ハ加
官進録して大宰家の國老とゆう居たるゞを好音ゑ悦
渾家水青女児深雪ゑ志のは面語せて帯刀ゞ媒妁ゑ從
せ、日〜と〜て粧奩ゆんど美を盡しをうるべを家長を傳
て深雪ゑ山口ゑる鳥衣巷へ送て差しゆう、さてゆ〜〜深雪ハ
浅香と勝し。乳母真柴とも傳うせて。今宵ゑん郎君の
邸へ入輿とゆ〜しゆる駒沢次郎左衛門春雄ハ。花燭形のごとく

物してめでさく合巹うへうる。春雄ハさきまでも新人ハ全
然失明くのゝ想ひ居たるゞ、洞房ゟ入来渠ゞ帽子を脱
たると看るゟ、這いうゟ。深雪ゞ銀海ハ瑩るまでその光澤
秋水のごゝく波をバ比先宇治明石うて見しゝうハ、ゝくろ
からゟや百倍も近優して雪膚花貌。天然の艶色貴ゟ
媚て。究も毛嬙西施と欺くぐうゟ。春雄ハ喜出望外
いとゞ心とときて。又しも洞房の觴を相斟相酌。深雪ハ
今宵の團圓と嬉しゝ。あるい来方の艱苦しさ。しとか
たういづ。春雄ハ府中の驛門ゟて。深雪ゞ零落し形状を
見て只顧痛ハしく想ひくらしそゝとう後の事と一切ゝう
ねバ。案ゟ相違しゝ今深雪ゞ容易盲の明たると詠うゟ

その由へを謝ゟ問うゟ。深雪回答ていへうやゝ。郎卿ゟ
寃の難ゟ遇たまひしゝと聞。身も世もあらまゞ。土地官
聖廟を禱とて。朝し冷けき水ゟて垢離を掻侍しゟ自
然血逆も下降しゟとと心地さいやぎ。かけまくも御神の垂
て。某の日偶と日月ともゟ明侍てき。春雄ゟまを聞うう
指を屈て日を筭のまバ。恰ど已ゞ寃の白たる日ゟそあうる。
春雄ハ今ゟ始ぬ神霊の灼然ることゝ仰さう。かく恩
愛ゟく語らふうちゟ斗轉星移バ。真柴浅香ハ翠帳を御
て避出るゟ。両個の夫妻鴛鴦の衾とうち襲ね鸞を轉し。
鳳と倒し。汝貪吾愛と綢繆ゝく。互ゟ巫山の夢路をゞ歩て
けるゞかくて深雪ハ室津るる亡バのお六ゞ庇を忘まず。熟く夫

主と議し一介の使を差て、登時の身價の十倍あら金子ハ吉兵衛へ與せ又數の絹帛ハ古へ增て、その謝意を表し、深雪まゝ己が套房金ハ出し、人を央て赤馬が関ゐる遊女小支那が身ハ償ハゝ常よ来去る雞作とハ倚情あるを知て居まバ、渠よ妻せつ後来深雪ハ男女の児を夥産けるふゞ、次男某をバ岳父弓之助請養て已が箕裘を襲ーめぬ。一年鎌倉殿より駒澤が經濟の大才あることを聞召およびせらゝ御眤近よ擢用ハるべきとの御教書到来せーらバ、大内介ハ満興朝臣大命を謹承給ひ、即日次郎左衛門を召て、御詔の趣ハ鈞命たまへバ、次郎左衛門感激奉承を稟あげ、舊主よ眷戀ハ盡せねども、只得秩禄を奉辞、御休暇を願ひまバ、満興朝臣御鈞諾あらせらゝて、渠が知行三千石を同家祥一郎小賜へ、舊の持高併て三千五百石とし、騎隊長よゞ命られけるハ、乃駒沢が功勞を報せらる故ハ、ふまこゝろ次郎左衛門ハ舊姓よ復し、宮城次郎左衛門春雄と名告家春ハ携へて、遥ゝ鎌倉指てゞ起程ける。奴く深雪ハ故小大津の驛よ舍て、父老五人どもと呼出し、夥の資財ハ頒與へて渠等ゞ舊誼を謝し、又海道一路の処くよて、些の看顧よ與うる者どもハ、有差よ物と取せ、一飯の徳とだよ酬ひざるハまうゝ。不日鎌倉よ到て叅上せるを聞あげしらば程ハく召出さゝて拜謁をゆるゝ君ハ速よまうゝ満足せうと

の大命あらせたまひて。即坐に五千石餘の采地を賜ハり。左衛門尉にぞ做さるる。春雄ハ是〻宮城新左衛門尉と称し親軍侍衛とぞ成せしが。當初本國菊池を退身たる時の舊志を遂たるなるべし。金吾春雄が輦轂下に在て。忠勤功勞ハ悉せ〻勲蹟ハ更に禿筆に記をべくもあらぬ。後春雄沉思に。功成名遂て身退ハ天の道なりと。一通の表を呈げ。強て乞骸骨奉りしに。ぞ古びよ〻帰老を許させ給ひ。春雄深く君恩を叩謝し。即日に妻深雪を將て故郷に帰ふ筑紫灣へぞ起程る。嫡子春盈恩命を蒙ひ。父が家督を継て御扈從に左右その餘の男児女子も總て肉食者に脩身たる故今遠行に臨む些の遺憾もあらざりけり。かくて春雄夫婦ハ肥後の境に入りぬ。今の國守も菊池典厩と称し。故頭殿の御曹子なりが。鎌府に參動せられて在府あらふ時に。「コ」が門弟とせる因あつりぬ。已が下向を聞せらるるに。極てその款待あらんことを怪て。異様に假扮して經歴。遂に阿蘇の御嶽に登て得て。浮世の人の尋ね来ま〻に幽僻なる風水を卜て。亂雲堆裏に茅廬を結び。丘壑を愛し。猿鶴を侶とし。爰に天年を養てぞその竟る處を志らず。詩あり證とす。

當復入州寛作期人間踏地有安危。風流丘壑真吾事。籌策廟堂非所知。白水春波天澹々。蒼峰晴雪錦離々。恰逢居士身輕日。正是山中多景時。

後来ある山賤が山又山に伐入るに。邂逅認しハその人にやあらん

大抵百歳を超つべき態にて。世の散楽に漁する高砂の尉姥のやうにて。仙風道骨を具て。顔色ぶを光滑し夫婦の老人に値遇きと語りたるもいと芽出とき例にぞあるる

朝顔日記巻之七　大尾

大聖歓喜天霊験経和訓圖會三巻　春屋繊月齊老翁著　浪速柏川半山大人画

日要精義　同著　全二冊

方鑒雜説　同著　全一冊

方鑒圖解　松浦琴鶴先生著　全五冊

蕉窓方意解　東郭和田先生著　全二冊

朱子心學録　明金谿王龍溪輯　全三冊

挿花衣の香　遠州流　全四冊

同　挿乃緑　遠州流　全四冊

同　賓名の海　同流　全三冊

鈴木渟州先生著

温畫隨筆　全四冊

此書ハ国字ノ随筆ニシテ雅俗ノ考証ヲカネ学問ヲ好ムカタル二甚タ益アル故ニ博物家モ座右ニ置ベキ書ナリ

頭書　遊仙屈鈔　唐張文成作　学士伊時敷　全五冊

此書本邦ニテ中華ノ小説ヲ譯解スルハ此書ヲ以テ始祖トス嵯峨天皇ノ時学士伊時ナルモノ神仙ノ譯ヲ得テコレヲ解ストイヘリ小説家必讀ノ書ナリ

一勇齊國芳畫

忠臣銘々傳　粉色入　全壹冊

此書ハ赤穂の義士四十七個誠忠の実伝を挙て画工国芳大人の筆流を画さ[illegible]人物画手本の最よろ利

造物趣向種　全二冊

此書ハ民神の条例他花会式ハ初午ろばの芸ほか事なるおもしろき造物ろうきんとおもふ時代ハ不可笑ものもあるかるきおもかりき時代書をもとめ絵ハ石燕戸物初のかるきものにてもつくにあるべ用ひやすく事ハ書くなれば此書ふくりて造物趣向を笑ひ[illegible]此書ハ[illegible]

同貳編　近刻

星池泰先生書

和漢對照書札　前後全二冊

清朝人ノ當時應用ノ書牘ヲ和文ノ書簡ニ翻譯シタレハ學向ノ一益ニシテ且ツ星池氏ノ書ノ尊義ナルヲ嘆賞スヘシ

加藤在止翁著

太平國恩理談　全五冊

此書ハ御代太平国恩の芳味深長ハして自身胸中のたの[illegible]ひを述ふ人ハ若[illegible]もるの徴意ハ外ちあり文小書毒の自在をひて人心を惑ひ[illegible]むを来ぬるの士道ハ[illegible]の非を病み名訓の出ハ芸述しこ[illegible]して名をうゝんとするのれひあらば[illegible]天下国家の幸福いつをう是小猶ん[illegible]やかゝ[illegible]ありがゝき書ハ[illegible]

三教童諭　全四冊

此書ハ仁義礼智信の教ハ故るを[illegible]悪を[illegible]

玉蕚齋歌川貞秀画

古今武勇歌仙　小本　壹冊

此書ハ古今武勇の名士の[illegible]和歌を集て六歌仙ハ[illegible]

梅室老大人撰

題英發句　全四冊

好華堂主人著

女重寶記驚筆　小本　全一冊

同

三編　近刻

古今名婦伝もれくるを拾ひ

葛飾北斎卍老人画

繪本彩色通　前後二冊

書林

京都寺町通佛光寺　河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　貳丁目　山城屋佐兵衛
同　貳丁目　須原屋新兵衛
同本石町十軒店　英　大助
同浅草芽町貳丁目　須原屋伊八
同芝神明前　岡田屋嘉七
大阪心齋橋通博労町角　河内屋茂兵衛
同心齋橋通本町角　河内屋藤兵衛